



報道関係者各位

2026 年 9 月 14 日(月)

ークリエイター側から見た生成 AIー
デジタルハリウッド大学大学院 公開セミナー
AI Bricolage Session – Season 2
Additional Talk Session
「上演される言葉 ―戯曲と AI のあいだ―」



10 月 19 日(月)19:00～21:00

有料・要予約/会場:デジタルハリウッド大学 駿河台ホール

日本初の株式会社による専門職大学院で、[SEAD (Science／Engineering／Art／Design)] 4 要素の融合をコンセプトとして、デジタルコミュニケーションを駆使し、社会に新しい産業や文化を生み出すリーダーを輩出するデジタルハリウッド大学大学院(所在地:東京・御茶ノ水、学長:藤井直敬、以下本大学院)は、「AI Bricolage(ブリコラージュ) Session – Season 2」と題した公開セミナーシリーズを 2025 年 11 月より開催してまいりました。

本シリーズは全 5 回のセッションを予定どおり終了しましたが、このたび、アディショナル回として特別セッションを 2026 年 10 月 19 日(月)に開催いたします。ゲストにお迎えするのは、劇作家・演出家の鴻上尚史氏。テーマは「上演される言葉 ―戯曲と AI のあいだ―」です。

【開催趣旨】

Season 2 では、映像、ジャーナリズム、音楽、イラストレーション、そしてメディア美学と、さまざまな創作の現場から「AI と創作」の問いを重ねてきました。その連続セッションを終えたいま、あらためて気づくことが



あります。私たちはまだ、「演劇」を語っていない——。

生成 AI は、もっともらしい台詞を書けるようになりました。物語の構造を学び、登場人物を動かし、それらしい戯曲の体裁を整えることもできます。けれど、戯曲の言葉は小説の言葉とは違います。それは「読まれるため」ではなく、「演じられるため」の言葉です。俳優の身体を通過し、声になり、息づかいになり、目の前の観客との一回かぎりの時間の中で立ち上がる。書かれた瞬間には、まだ完成していない言葉なのです。

AI は、そのような言葉を書けるのでしょうか。そもそも、身体を持たない知性に、身体を前提とした言葉が書けるのか。そして、あらゆる表現が生成され、複製される時代に、生身の人間が同じ場所に集まる「劇場」には、どんな意味が残るのか——あるいは、そこにこそ何かが残るのか。

40 年以上にわたり第一線で戯曲を書き、俳優を演出し、言葉と身体の間を問い続けてきた鴻上尚史氏とともに、生成 AI 時代の「上演される言葉」について考えます。演劇の話にとどまらず、私たちが誰かとともに何かをつくるとはどういうことか、その根っこに触れる夜になるはずです。

■ゲストプロフィール

鴻上尚史（こうかみ・しょうじ）



作家・演出家。1958 年、愛媛県生まれ。早稲田大学法学部在学中の 1981 年に劇団「第三舞台」を旗揚げし、80 年代の小劇場ブームを牽引。1987 年『朝日のような夕日をつれて'87』で紀伊國屋演劇賞、1994 年『スナフキンの手紙』で第 39 回岸田國士戯曲賞を受賞。1999 年よりプロデュースユニット「KOKAMI@network」を中心に活動し、2007 年から 2022 年まで「虚構の劇団」を主宰。桐朋学園芸術短期大学名誉教授、元・日本劇作家協会会長。『発声と身体のレッスン』『「空気」と「世間」』『同調圧力』『演劇入門 生きることは演じること』など著書多数。「鴻上尚史のほがらか人生相談」でも幅広い読者の支持を得ている。2026 年は、解散から 15 年を経て再結集する「第三舞台 2026」新作公演『パレイドリア』が上演中など、いまなお第一線で創作を続けている。

撮影：©TOWA

平野 友康（ひらの・ともやす）



1974 年生まれ

テレポート株式会社代表、VR 宇宙旅行社スターハウス代表、IU 情報経営イノベーション専門職大学超客員教授、参加型社会学会理事。1998 年に鴻上尚史主宰「劇団第三舞台」をプロデュースするサードステージのデジタル門から独立、株式会社デジタルステージを設立。2015 年まで同社代表を務める。「モーションダイブ」シリーズや「BIND」、「フォトシネマ」など“自分たちの生活をデザインする”ソフトウェアを開発。著書『旅する会社』（アスキー）をはじめ、ニッポン放送「平野友康のオールナイトニッポン」の DJ、坂本龍一氏のネットライブ中継のプロデュースなど多方面で活躍。グッドデザイン賞金賞、文化庁メディア芸術祭優秀賞など受賞歴多数。

■開催概要

日時：2026 年 10 月 19 日（月）19:00～21:00





会場：デジタルハリウッド大学 駿河台ホール

(東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ アカデミア 3F/JR「御茶ノ水」駅 聖橋口 徒歩 1 分・東京メトロ「新御茶ノ水」駅 B2 出口直結)

参加費：1,500 円

定員：100 名

主催：デジタルハリウッド大学大学院

登壇者：鴻上尚史、平野友康

モデレーター：福岡俊弘(デジタルハリウッド大学大学院 特命教授)

申込：<https://bricolage-ex.peatix.com/>

【シリーズについて】

イベント名：デジタルハリウッド大学大学院 × AI Bricolage Session - Season 2

～AIをめぐる連続セッション__駿河台会議 On the Creators' Side～

本シリーズは、生成 AI が創作・表現・メディアの現場にどのように浸透し、何を変え、何を問い直しているのかを、各回ゲストとともにブリコラージュ的に探求する公開セミナーです。

これまでの回：

#1(2025 年 11 月)「シナリオから映像への共創」ゲスト：神山健治氏(アニメ監督・脚本家)

#2(2026 年 1 月)「創造の再定義と AI」ゲスト：林信行氏(フリーランス IT ジャーナリスト兼コンサルタント)、遠藤諭氏(『月刊アスキー』元編集長)

#3(2026 年 3 月)「音楽の未来の共鳴」ゲスト：伊藤博之氏(クリプトン・フューチャー・メディア)、後藤真孝氏(産業技術総合研究所)

#4(2026 年 5 月)「生成とドローイングの境界」ゲスト：荻野健一氏(京都芸術大学)、月神るな氏(イラストレーター)

#5(2026 年 7 月)「未来と創作の逆理」ゲスト：武邑光裕氏(メディア美学者)

【お問い合わせ先】

デジタルハリウッド大学大学院 AI Bricolage Session - Season 2 事務局

メール：daigakuin@dhw.ac.jp

【デジタルハリウッド大学大学院について】

<https://gs.dhw.ac.jp/>

日本初の株式会社立の専門職大学院として 2004 年に開学。

2026 年 4 月、二代目学長に藤井直敬が就任。初代学長・杉山知之が示した「すべてをエンタテインメントにせよ」を拡張し、新たな教学ヴィジョンとして「世界を満たせ」を掲げる。

超高度情報化社会においてデジタルコミュニケーションを駆使し、社会に変革を起こすリーダーを輩出すべく、創発的学究領域 SEAD(Science/Engineering/Art/Design)の 4 要素をバランス良く身につけ融合し、理論と実務を架橋する人材育成を行う。新規事業プランニングとプロトタイピングなど、院生のアイデアの実装およびスタートアップ支援により、「令和 7 年度大学発ベンチャー調査」(経済産業省)では全国大学中 17 位、私立大学中 7 位となっており、多数の起業家を輩出している。

本大学院では、本学在籍の院生・修了生の起業・事業支援に注力しております。デジタルコミュニケーシ





ョン領域での産学協同研究にご興味をお持ちの方、本学への入学を検討されている方、また企業の皆様は下記よりお気軽にお問合せください。

【デジタルハリウッド大学大学院事務局】

TEL: 0120-019-236 メール: daigakuin@dhw.ac.jp

【当プレスリリースに関するお問い合わせ】

デジタルハリウッド株式会社 広報室: 川村

mail: press@dhw.co.jp

TEL: 03-5289-9241

デジタルハリウッド公式サイト: <https://www.dhw.co.jp/>

過去のプレスリリース: <https://www.dhw.co.jp/press-release/>

